

令和4年12月16日

第2回学校運営協議会 議事録

書記 稲葉 啓太

1 日時 令和4年12月16日(木) 14時30分～15時30分

2 場所 本校A棟3階 大会議室

3 出席者 鎌倉高等学校 学校運営協議会委員(敬称略)

永野 征男	日本大学名誉教授、鎌倉市まちづくり審議会委員
大村 智香子	本校PTA会長
板倉 浩子	本校元PTA会長
田邊 克彦	元昭和音楽大学教授、元県立総合教育センター所長
田中 顯治	鎌倉高等学校長

鎌倉高等学校職員

築瀬 公成	副校長	
佐藤 竜太	教頭	
椿 みどり	事務長	
福井 利廣	総括教諭	教務グループリーダー
石川 比呂子	総括教諭	キャリア支援グループリーダー
鈴木 康晴	総括教諭	管理グループリーダー
永山 悦子	総括教諭	生活指導グループリーダー
千葉 大介	総括教諭	生徒会グループリーダー
佐藤 靖彦	総括教諭	学習企画グループリーダー
稲葉 啓太	教諭	学習企画グループ

欠席者

鈴木 徹	鎌倉市立腰越中学校長
齋藤 貴	神奈川工科大学副学長
白井 誠一	七里ガ浜二丁目自治会長
渡邊 晃	本校同窓会長
中林 奈美子	本校元PTA会長

4 協議内容

(1) 校長挨拶

田中校長

・今年はウィズコロナの中でも、なるべく学校行事などを行えるよう運営してきた。来週には修学旅行もあるが、無事に帰って来られるよう努める所存である。

・現在生徒が使用している部室棟がかなり古い状況であり、学校内で部室棟の修繕のための資金準備をしていたところ、卒業生の神奈川県議会議員に、県が予算を計上するべきだとのこと指摘をいただいた。現在は再度部室棟の修繕の予算要求などを進めている。

・10月6日に公開授業研究会があった。第三者評価委員の方に授業をご覧いただき、生徒や職員と面談をしていただき、そして、多くのご指摘・ご意見をいただいた。本日は皆様からもご意見をいただきたい。

・第三者評価委員の方のご意見を紹介する。「教員や生徒はグループワークやペアワークなどを肯定的にとらえているが、アクティブラーニングの本来の趣旨である深い学びに至る活動は少ないように見えた。感想を伝え合うだけのような場にならないように、計画的に進めるべきである。」

→このご意見を受けて校長としては、この反省を管理職・教員でどのように進めていくかしっかりと計画を立てて考えることが重要であると捉えている。

→第三者評価委員のご意見から、学校の課題を率直にいただくことができたと考えた。着実にひとつずつ、取り組んでまいりたい。また、人や時間が限られた中でも全力を尽くしたい。

・この反省のほかにも、鎌倉高校には「指導要領の趣旨を理解した学習指導の実現」「生徒の進路希望の実現」といった課題がある。これらについても真摯に取り組んでまいりたい。

(2) グループ報告

1. 教務グループ 福井総括教諭

- ・生徒・職員でも感染が増加しているが、今のところ学級閉鎖ではなく、滞りなく授業を実施できた。
- ・教員が感染してしまった場合にも、自宅からオンライン授業をするなど去年の経験を活かしながら ICT を活用した授業実践を行っている。今年は去年よりさらにコロナ対応を充実して行うことができた。
- ・今年からは1年生全員が一人1台のタブレット端末を購入している。このような ICT の導入もコロナ対応に有効的であったと考える。

2. キャリア支援 石川総括教諭

- ・経年変化を含めた実力テストの分析結果を全職員に示し、本校の傾向という形で示した。生徒にも先輩たちがどのような形で受験に挑んだのかということがわかるように進路集会を通して報告した。
- ・全国的に高校2年生という学年は、学力が少し下がってくるという傾向があるが、本校の75期生は学力が下がらずに推移している。スタディマラソン等の学習の成果が出てきていると考えている。
- ・3年生についての進路状況については、次回の学校運営協議会で報告する。

3. 管理グループ 鈴木総括教諭

- ・今年は藤沢養護学校鎌倉分教室およびPTAと協力し、できる範囲で行事を実施できたと考える。
- ・PTA役員と管理職との協力により、運営委員会を通じて情報交換をし、高P連地区大会を幹事校として運営する等の成果をあげることができた。
- ・公私合同説明会を実施できたのが昨年度までとの大きな違いである。
- ・3年ぶりに全校生徒での避難訓練ができた。3年ぶりにも関わらず大幅に避難時間を短縮できた。

4. 生活指導グループ 永山総括教諭

- ・学校生活アンケートをとり、96%以上の生徒が「学校が楽しい」または「まあまあ楽しい」と回答した。また、学校生活に悩みを抱えている生徒の多くは理由として「勉強に悩みがある」と回答している。相談先は家族、友人、教員の順番であった。
- ・学校生活アンケートは、良い結果だったが、その一方で勉強を頑張りすぎて緊張の糸が途切れて学校に登校できなくなる生徒がいるということがあった。
- ・「情報共有シート」の更新を行い、簡易的に入力できるシートを作成し、本日から運用を開始した。この点については1月には運用結果を報告できると考える。
- ・SNSによる被害が増えた。
 - SNSを利用した会話の中で解釈による違いでトラブルが起き生徒指導になった事案があった。
 - そのほかにも、発信元のわからない、いやがらせの画像の送り付けがあった。
- ・オンラインゲームの課金トラブルもあった。トラブルを抱える生徒に対する指導を継続的に行っていく。
- ・健康診断は予定通り順調に実施できた。
- ・11月18日に海岸清掃をボランティア委員会の生徒中心で実施した。
- ・交通安全高校生大会において、交通安全ポスターコンクールで4名入選、1名最優秀賞に入選した。

5. 生徒会グループ 千葉総括教諭

- ・学校行事と部活動については、三大行事である文化祭、体育祭、合唱コンクールを滞りなく行うことができた。
- ・合唱コンクールを3年ぶりに行うことができたが、練習期間を長く確保できなかったことが課題である。
- ・合唱コンクールに関して、生徒からは実施できてよかったとの声をもらった。
- ・修学旅行も感染者を出さずに実施していきたい。

6. 学習企画グループ 佐藤総括教諭

- ・以前よりSSH申請に向け学校運営を行っていくという話だったが、その後、神奈川県教育委員会から指示があり、今年度は、鎌倉高校はSSH申請を実施しないこととなった。
- ・来年度以降のSSH申請については未定であるが、理数教育推進校としてSSH申請ができるような取り組みをこれまで通り、また発展的に行ってほしいとの指示があったので、これを全校で実施していく。
- ・10月6日に公開研究授業を行った。その後の研究協議において活発に議論ができたので、来年度はもう少し協議時間を増やしていきたいと考える。
- ・現在総合的な探究の時間K-ARP(2年生)を、71班のゼミ体制で研究を進めているが、3月16日に発表会を外部向けに実施する予定である。
- ・教員による他校での研究授業見学も実施している。
- ・一人1台端末に関しては1年生向けに新しい取り組みをする先生が多くいる。ICT研修などを利用した先生方同士の新しい交流も生まれている。

(3) 意見聴収

永野委員

・10月6日の公開研究授業を見学した。タブレット端末を活用した授業だったが、感想としては、タブレットに乗る内容は感覚として難しいと思った。先生方は、普段から活用している教科書の流れを実施していく授業形態の中での研究授業だったのだと思うが、教える側としては、タブレットは使いにくいのではないかと非常に感じた。

・学校評価報告書の中間報告の具体的な方策の中で、「海外との交流およびその成果を通して、グローバル人材の育成を図る」とあるが、4年間の実施計画の中でどこに当たるのか、またどこにリンクするのか疑問である。

佐藤(回答)

・4年間の目標では、「総合的な探究の時間を中心に、根拠に基づく科学的思考力、課題解決力と表現力を養う」の「表現力」に位置する。SSH申請の際に使用する基準としても、「海外に向けたグローバル人材の育成」という目標というのがあるため、国際理解などの取り組みを行っている。

永野委員

・進路指導支援について、具体的な方策の「定点データ」とは何を表すのか知りたい。

石川(回答)

・実力テストの「定点観測データ」の確立を目標に掲げている。これまで、実力テストの実施時期が年度ごとに異なるという課題があったが、これを毎年同じ時期に実施することで、生徒の期ごとの成績を定点で観測することができる。それを進路集会やなどで生徒や職員全体に共有し、分析することもできる。

大村委員

・PTAとしていくつかの学校行事を見学させていただいた。新しい時代に向け、先生方が様々な努力をしてくださっていると感じた。

・生徒も有意義に過ごしている。勉強も部活も新型コロナウイルス流行前とはだいぶ変わったが、生徒たちは鎌倉高校で今できることを満喫していると感じる。

・私はまだ子供が鎌倉高校に在籍しているが、この時代特有のトラブルが心配だという話を家庭内でもしている。

・先生方には、きめ細やかな対応をしてくださっていると感じている。

・学校運営全体では、PTAの内部で上がってくる意見にも学校に対応をしてくださっているのだから、うまく回っていると感じている。

板倉委員

・学校の運営が少しずつコロナから戻ってきており、戻れるような対応ができていない高校がある中で鎌倉高校はとても良いと思う。卒業時には「こんな3年間を送ったんだよ」という誇りをもって卒業してくれたら嬉しい。

・中学生はタブレットが大好きである。中学校でもどう使ってよいかわからないながらも興味があった。一人1台のタブレットは教員の力量が必要であると考え。積極的な教員と消極的な教員とで二極化してしまうことは共感できるが、教員側の考えを変えないと、生徒とうまく一つにはなれないと考える。

・進路のことだが、高校2年生の良い噂は聞く。鎌倉高校のOB・OGも現役生の成績を気にしている。これらの成果は先生方の頑張りのおかげであると感じている。ぜひSSHにも採用されてほしい。

田邊委員

・10月6日の公開研究授業には出席できなかった。申し訳ない。第三者評価委員会の方に指摘された内容は、だいぶ厳しい内容だが、この評価をどう受け止めるかは助言を聞いただけでは意味がない。かなり厳しい書かれ方をしているという考え方をした方が良いと考える。このことについて何も反応できない教員集団では意味がないと考える。自覚をして今後取り組んでいかれたほうがよい。

→厳しい指摘を受けた根底の原因を考えると、PDCAサイクルがきちんとできていないからだと思う。なんとなくやるのはダメで、結果が出るように頭を切り替えてやらないといけない。

・次回から各グループの報告資料の事前配付をお願いしたい。

・学習指導要領については、すでに新指導要領に関しては実施が始まってからだいぶ時間が経つので、課題が見えてきていると思う。早めに対応すべきだと思う。進路指導の結果が出るはずである。新指導要領の内容をはつきり理解していない先生がいるのなら、それは根底から間違っていると考えべきである。

・ウィズコロナは明確になったのだから、この状況があたり前と考えて学校もウィズコロナの前提で対応していくしかない。

(4) その他意見

田邊委員

・新カリキュラム実施において、どんな課題があるか？

公共担当 千葉(回答)

・高校の公共は、中学校の公民を深める科目であると考えている。特色としては例えば、正義や権利などについての考え方を、議論などを通して深め、探究していくという姿勢を重視するところであり、これまでの指導内容の軸が変わったと感じる。

・課題として感じているのは、主体的で深い学びについてである。毎回の授業で、意識して発表や共有の時間を増やしている。定期テストを終えてわかったが、覚えるべき知識の定着が若干下がったというように感じる。

・大学入学共通テストや私大の入学試験などでは、知識を問う問題が依然として多い状況に対応することが難しいのかもしれない。

・授業は覚える時間ではなく考える時間であると生徒も意識しているが、受験には結局知識が必要であり、その点で教員にも生徒にも混乱はあるが、生徒には知識がないと考えることができない旨を伝えている。

歴史総合担当 佐藤(回答)

・3学年を比べると、1学年はグループワークについてとても活発に行うという印象がある。非常に慣れているという印象がある。

・歴史総合ではアクティブラーニングは大前提として、探究的な学びについてどうするのかという点について課題があると考えている。

・例えば、大衆と国民という言葉が示す人々の特徴について歴史的な背景に伴う変化について考えさせる授業をしたことがある。

・千葉と同じ意見で、指導方法や内容を大学受験とどう結びつけるのかというところには課題がある。

・大学受験対策については、生徒たちが自分たちで知識を整理して、活用できるように授業を作っている。

・定期テストはどうしても難しくなるが、結果を見ると、彼らはちゃんと勉強をしていると感じている。

・理数探究基礎では、生徒の思考力を養うことに重点を置いている。データの分析やクリティカルシンキングについて学ぶ授業をグループワークを中心に進めている。

・新カリキュラムについては、教員側がどうフィードバックするかについて課題があると感じている。

- ・教員は教科書を教えた方が楽だが、生徒を伸ばしていくのであるならば、生徒の発言や質問等に柔軟に対応する力を教員がつける必要がある。この点については、教員は難しい時代に入ったと感じる。
- ・他校のバカロレアコースの公開研究授業を見学した際には、授業の内容は英語で論文を書いて出すという形式だったが、教員は何もせず、生徒同士の発言に教師が反応するくらいで、メンター的な役割に抑えていた。
- ・新カリキュラムでは、教員が勇気をもって生徒に何もしないという状態にもっていくのはどうすべきか考える必要があると考えた。

田邊委員(回答に対する意見)

- ・基本的には先生方が工夫すべきというのは間違いない。ただ、形だけやればよいというわけではない。アクティブラーニングを行っても、形だけになってしまうというのは問題である。
- ・先生方が個人個人でバラバラでは意味がない。研究授業だけでなく、普段からそれらを組織として実施していくべきである。目指すべき場所は教科が違って同じはずである。

板倉委員

- ・鎌倉高校に来る生徒はグループワークが大好きだと思う。受験の暗記はできないかもしれないが、目指すべき場所は同じだと考える。
- ・家庭科の新カリキュラムの指導内容である投資については職員室では教員同士で話さないかもしれないが、教科横断的に話を深めて情報を共有すべきだと考える。

石川(回答)

- ・実際に職員室でも教員同士で投資について話している。
- ・新カリキュラムでは家庭科に保育や介護に関すること、そして投資が指導内容として入ってきた。
- ・現在のカリキュラムは日本の国策に従った新指導要領であると考ええる。
- ・大人になった時に知識がないと不利益になることがあるので、そうならないように家庭科の授業で様々な事柄、例えば投資についても教えることになっている。

永野委員

- ・新カリキュラムに関しては、このカリキュラムを先生方がどのように自分のものにして、生徒に教えているか。
- ・鎌倉高校の先生方は意識が高いと感じる。そう感じたのは、先生方の机上に例えばサブノートや新教科書がたくさんあったからである。やる気があれば、今が一番勉強できる時期だと思う。
- ・共通テストの想定問題を見ると、従来の地理歴史総合と異なることは明らかである。私は地理に関しては、これを見て、どう教えるべきかを考えているところである。

永山(回答)

- ・英語科に関しては、新カリキュラムの観点別評価で、スピーキングの評価として、ディスカッションなどが加わった。何を伝えたいのかをいうことが大事であると感じる。
- ・国語科での表現力が大事になったり、他教科の先生方との教科横断的な協力が必要であると感じる。

田中校長

- ・第三者評価委員の方のご意見は非常にきびしいが、この学校に果たすべきミッションを与えてくださっていると考えている。
- ・これを達成するために、いかに管理職や他の教員をまきこんでいくのが重要であると考えている。
- ・鎌倉高校の体制を強く示していくべきだと考えている。ただ、時間の調整は必要である。鎌倉高校として聞きっぱなしではだめだし、なんとなくではだめである。PDCAサイクルを回していくということは非常に大事であると私も感じている。

・グループワークや発表は教員や生徒に肯定的にとらえられているが、それらのやりとりは本当の意味でアクティブラーニングの趣旨である「深い探究学習」を捉えられていない。教員がいかにフィードバックしたり、生徒の意見を拾い上げたりできるかというところは我々教員の力にかかっていると感じた。

・2年生の学力が他校と比較して落ちていないということは肯定的に捉えたい。極端な言い方をすれば、学校行事などのイベントを多く入れると学力が落ちることがあるが、鎌倉高校ではイベントがあっても2年生の学力が落ちていない。これを、PDCA サイクルを回していく中でも、残したいと考える。

田邊委員

・SSH 申請の件について小田原高校が良くて、鎌倉高校がダメな理由は？

佐藤(回答)

・校内人事が整っていないこと、理科数学人材が育つような校内体制が見えないことが理由であるという意見をいただいている。

田邊委員

・前回の学校運営協議会で、校内人事で内部体制を整えるとの話が既に出ていたが、校内人事で探究活動に係る全教科的な指導はできているか？

佐藤(回答)

・今年度からすべての教員が理数探究や総合的な学習の時間で関わるような体制を作っている。それよりは、トップ科学人材の育成の体制ができていないことに課題がある。

田邊委員

・既存の SSH 指定校で行っている取り組みを調べて、鎌倉高校にも取り入れるべきではないか？

田中校長(回答)

・鎌倉高校、小田原高校、横浜緑ヶ丘高校の3校で申請を出したところ、似たような学校がなぜ出すのかと文科省に言われた。申請校を絞る必要があるということで、鎌倉高校は一度控えさせられたという形である。

田邊委員

・生徒指導に関して、SNS に関する被害が発生しているが、生徒の中の意識に関しては、共通理解として危機意識はあるか？

永山(回答)

・毎年スマホ教室を行っている。一般的なことはそこで指導しているが、実際に発信源のわからないような予想外の事例が起きている。私たちも生徒も驚いている状況である。

・来年度には、警察の方にそのようなことも教えてもらう必要があると考えている。

田邊委員(回答に対する意見)

・事前に防げたらと思うが、大変かもしれないが、先生方にはぜひ取り組んでいただきたい。

(5) その他

田中校長

コロナで実施していなかったが、3月の3年生の進路が決まる頃に、キャリア部会を実施したいと考えている。齋藤委員、田邊委員、永野委員、渡邊委員、大村委員も入っていただき、5名でキャリア部会を試行的に実施させていただきたい。次回の日程は、3月10日の午後に第3回の学校運営協議会を開かせていただきたいと思います。

予定：2時～キャリア部会、3時～学校運営協議会

以 上